



医学部だより

第8号

2005.4.1

巻頭言

病気と病器

医学部長 曾根 三郎



医学部に入学された新入生の皆さんおめでとう。心より歓迎いたします。医学部は医学、医療を担う人材を輩出する拠点として輝かしい歴史を刻んでいます。

医学科は平成16年度より前期2年間の臨床研修義務化がスタートし、基礎および臨床医学教育の充実化の中で卒前から卒後の教育カリキュラムに一貫性を持たせていく努力をしています。また、臨床医の育成だけでなく、競争力を持ち国際的に活躍できる研究者も輩出しています。栄養学科は、管理栄養士の資格だけでなく、教員免許も取得が可能となるカリキュラムがスタートしています。保健学科は今年度で4年次までの学生がすべて揃い、平成18年度に大学院保健科学教育部修士課程の設置が計画されていますので、保健学分野での指導的な専門職業人の育成が可能となり、今後の発展が期待されています。

さて、蔵本地区は生命科学研究・教育の拠点として世界的に注目されています。この数十年、医学の進歩には目を見張るものがあります。しかし、医療の現場に戻ると、多くの患者さんが難病に苦しんでいるのも事実です。良い医療には「Science」と「Art」の2つの側面が必要です。医学教育カリキュラムの多くの部分が「Science」を中心に網羅されており、臓器の病である「病器」の学問と言えます。一方、「病は気から」という言葉がありますが、「病氣」を学ぶには「Art」の理解と経験が必要と思われます。医療の質を支えるのが「Art」の部分であると考えられます。それを磨くには授業を受けるだけでは不十分で、クラブ活動に熱中し、幅広く経験を積むしかないと考えます。汗と涙を共有する仲間こそ大切にすべきであり、ぶつかり合いの人間関係の中で喜怒哀楽を知ることにより、「Art」が身につくと思います。チャレンジ精神を持ち、有意義な学生生活を過ごして頂きたいと願っています。

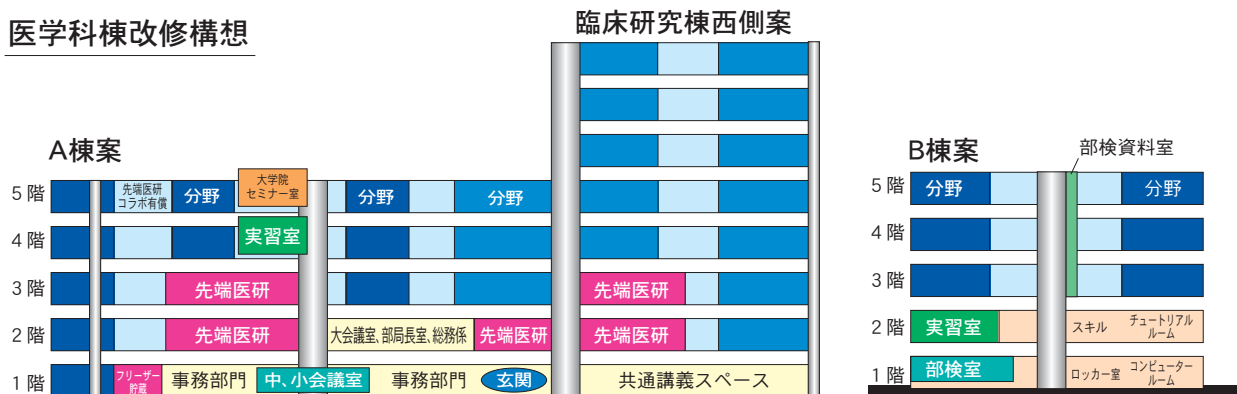
医学科総合研究棟の改修スタート

医学科棟の老朽化は激しく、耐震性の問題があり、施設内環境も劣悪化していたために早期の改修が求められていました。青野学長より平成17年正月明けに、平成16年度補正案として医学科棟の改修にかかる予算が計上され、改修面積は1,050㎡、予算は8億3千万円になったと連絡を頂きました。改修にあたって4つの原則を基本としました。すなわち、①学生のための快適な教育環境をB棟に整備、②研究者、大学院生の人数に基づく研究室、実験スペース配分制度、③研究を支援する先端医研センターを

コアとした配置、④1階スペースに事務管理棟を設ける。

基礎、臨床の医学科棟改修計画(図)として、第一期をA棟西側からスタートし、第二期はA棟東側、第三期はB棟、第四期は臨床研究棟西側の建物を予定しています。第一期改修工事は6月より開始し、平成18年3月には完工の予定。現在のトンネル部分に正面玄関が設置され、車の進入は遮断されます。最終的には、基礎、臨床の講義室が囲む形でハートフルゾーンが作られ、学生、教職員が憩える快適空間が誕生する予定です。(曾根 三郎)

医学科棟改修構想



*** 医学科から ***

新入生の皆さん、コミュニケーション能力を磨こう

医学科長 福井 義浩



医学・医療分野の仕事はグループで行うことが多く、お互いの意志疎通をはかることが重要です。これらの能力は生まれつき高いひともいますが、学生生活を経験し仕事をこなしていく内に自然に身に付くものです。将来、医師として医療現場に出た時、患者さんから正確な情報を得ながら、専門の異なる多くの医療スタッフと協力して、病気の診断、治療方針の決定、処方箋の発行などを行わなければなりません。これらは個々の医師が責任を

持って行わなければならない行為ですが、決定の際には、上司、同僚、他の医療スタッフの意見を聞き正確に行う必要があります。

研究でも、計画を立案し、助成金を獲得し、実験器具を調達しなければ研究はスタートしません。また、放射性同位元素、ヒトゲノム、遺伝子改変動物を用いた実験では、種々の法律や学内規則に従わなければなりません。研究指導者、他の研究者、技術員、事務員、納入業者の方々とのコミュニケーションをうまく図ることが重要になってきます。

部活動等を通してコミュニケーション能力を高め、様々な人々との出会いの中で学生生活を実り豊かなものにして下さい。

*** 栄養学科から ***

栄養学科の最近の歩み

栄養学科長 中屋 豊



徳島大学の栄養学科は医学部の中にある栄養学科ということを中心に述べましたが、振り返って考えてみると、他の大学とそれほど教育に対しては大きな差がみられていなかった様に思われます。病院における研修もそれほど多くはなく、教員が少し講義で臨床栄養に力を入れているという程度でした。4年前に教育内容が大幅に変わり、臨床に関すること、実地研修が大幅に取り入れられ、

我々の大学でも以前にも増して臨床栄養に力を入れるようになりました。教育の履修項目が変更になった学生が今年初めて卒業する予定です。本年から卒業する我が校の栄養士・管理栄養士が臨床の場で大きく活躍できることを期待しています。

平成16年より、大学院は、徳島大学大学院栄養学研究科から大学院栄養生命科学教育部と名称が変更になりました。名称が変わっても従来の栄養学の研究はそのまま行いますが、生命科学という名が付き、栄養にとどまらずに生命科学の教育・研究も行う大学院としてスタートし、栄養以外のバックグラウンドの人たちが入学しやすくなりました。入学後も、医学、歯学、薬学の大学院

教育部とも連携が強くなり、お互いの授業などを履修することが可能となり、生命科学の分野がさらに充実しました。大きく飛躍するためには自分の専門の小さな領域だけを知っているだけではだめで、他の分野からも学ぶ必要があります。また、社会人として活躍されている栄養士の再教育の場としてのシステムを構築中で大学院教育では、臨床栄養に関する講義も増やしました。今年からは、社会人大学院（博士後期課程）学生が、遠隔地であっても仕事を継続しながら、e-ラーニングを利用し学べるシステムを作る予定にしております。

徳島大学大学院栄養生命科学教育部は、14名の教授、助教授、講師をそろえており、各分野を指導する教員も充実しており、私どもも、世界有数の基礎から臨床までの栄養学の最も充実した大学院の一つと自負しております。

平成15年に研究棟が新しく改築し、きれいな研究室になりました。卒業論文の学生用と、大学院生用の学習のスペースも充実しており、教育と研究の場としては、我が国でも最高の設備が備わりました。21世紀に通用する栄養学の研究、臨床栄養のみならず、生命科学の研究の場としてすばらしい環境にある徳島大学医学部栄養学科で一緒に学びましょう。

*** 保健学科から ***

保健学科の学習環境の向上を目指して

保健学科長 前澤 博



保健学科では、今年4月から新4年次学生が臨地・臨床実習や卒業研究で専門性に磨きをかけ、さらに国家試験や就職試験に向けた活動が始まります。学生諸君がそれぞれの職場や進学先で高い評価を受けるように、教員は努力します。我々が開設当初描いていた施設、設備や教員配置の実現が不十分であることを大変残念に、学生諸君には申し訳なく思います。しかし、学習環境の整備は急ぐ必要があり、特に4年次学

生の自己学習や卒業研究を行うための学習室の整備と夜間出入り管理システムの導入を進めます。後期から設置された学生の声の投書箱には、アメニティーや授業に関する要望が多数寄せられ、学生諸君の大学生活や勉学に対する意識の高さが現れています。また、学生が主体であるクリーン対策委員会の主導で教室と中庭の清掃が行われ、学生諸君の努力に感謝します。学生諸君の高い意識と実行力を生かし、また我々も一層の経費節減および教育充実の努力をし、学生諸君の学習環境の向上を図り、より豊かな学科を創りたいと考えています。

新入生へのメッセージ

指導医から在校生・新入生の皆さんへ

徳島大学病院 神経内科 松井尚子

新入生のみなさん入学おめでとうございます。大変な受験勉強を終え、中には一人暮らしが始まった方もたくさんいると思います。私は平成11年度卒業生で、現在徳島大学病院の内科医として業務にたずさわっております。在校生の方とは5年生の臨床実習(クリニカルクラークシップ)の学生さんと接触するくらいですが、私の経験してきた臨床実習と違って、学生が診療チームに参加し医師としての第一歩を踏みだせるよう、内

容が非常に充実してきており、学生サイドのモチベーションも向上してきていると思います(その背景には医学教育や臨床研修システムの変革があつてのことですが)。まあ大変なことはさておいて、遊び、部活、アルバイトなど学生時代にできることはぜひやって下さい。なんとなく学生時代を過ごしてきた私ですが、ぜひともみなさんが有意義な学生時代を過ごせることを願っています。

研修病院から在校生・新入生の皆さんへ

聖路加国際病院内科 西村直樹

「研修病院」といわれても大多数の新入生ならびに多くの在校生にとってはピンとこないことでしょう。2004年度から卒後研修制度が変わり、医師卒後研修が義務化されたことをご存知のことと思います。かつては医学部卒業後はほとんどの場合どこかの大学の医局に所属し、俗に言うストレート研修を受けました。市中の一部の研修病院では全科ローテートの研修を以前から実施していましたが、卒後にそういった病院に研修に行くことは、かつては異端とされたものです。しかし新研修システムでは全科ローテートの研修を義務付けているため、以前からそのノウハウを持っている研修病院に卒後研修の人气が集中し、大学に残る人が少ないという事態を生みました。

大学にとっても、市中病院にとっても、また何よりも医師(研修医)個人個人にとってもチャンスが増えることを意味します。優秀な人材にはあらゆるところから声がかかりますし、努力しなかった人は研修終了後に困ることになるでしょう。大学も市中病院も人事が流動化しますので力のあるものだけが重用される時代になります。このような卒後研修の大転換時代に、医療の荒波の中に旅立とうとする在校生諸君に送る言葉はただ一つ、「チャンスは頑張った者にだけ廻ってくる」、ということです。私もまだまだ多くのチャンス求めて現在進行形だと自分に言い聞かせている方ですが、皆さんも是非頑張ってください、いずれ一緒に仕事ができる時が訪れることを楽しみにしております。(医学部医学科41期)

栄養学科から新入生の皆さんへ

臨床栄養学分野 竹谷豊

新入生(42期生)の皆様、ご入学おめでとうございます。ここ数年、新カリキュラムへの移行、栄養教諭制度の創設、栄養サポートチーム(NST)活動の高まりなど栄養学を取り巻く環境は大きく変わってきています。これらの変革は、いずれも管理栄養士に対する社会のニーズや期待を反映してのことと思います。当栄養学科でも、栄養学科棟の改修、21世紀COEプログラムの採択、医・歯・薬・栄養の統合大学院への改組など、この数年の変化には特筆すべきものがあります。私は、17年前(25期生)に入学しましたが、その当時とは比べものにならないくらい、教育・施設・研究のシステムが整備されておりうら

やましく思います。皆さんには是非これらのシステムを有効に活用し、医学・栄養学の急速な進歩についていけるだけの栄養を養ってもらいたいと思います。また、蔵本キャンパスには医療関係の様々な学科がありますので、課外活動などで他の学科の先輩や友人あるいは地域の人々との交流の機会を持ち、将来コ・メディカルスタッフとして活躍するための資質を身につけてもらいたいと思います。大学4年間は、長いようで意外と早く終わってしまいます。様々なことに積極的にチャレンジして多くのことを学び、経験し、将来の糧にしてほしいと思います。

保健学科から新入生の皆さんへ

保健学科看護学専攻 橋本文子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。「人のために役に立ちたい」という思いや人間にかかわる職業を志向し、看護学専攻を選択されたことと思います。この入学時の初心を大切にしながら、様々な学習を通して「自分自身の専門領域の仕事については、根拠に基づき自分で考え責任をとれる」専門職業人になることを期待しています。

速まっています。教員は、激変する社会に対応できる看護専門職の育成をめざして、「何をどのように伝えるか」だけではなく「何故、何のために伝えるのか」を意識して、皆さんと向き合いたいと考えています。

現在、少子高齢社会の進行に伴い保健医療福祉の政策・制度やシステムが大きく転換してきており、その変化のスピードは

日頃から新聞等の報道や日常生活をする上で感じたことや疑問に思うことを通して、社会やその背景に関心をもってください。それを基盤として自分自身の人間観や価値観を育てていられるよう願っています。

保健学科から新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとう。けれども間違っはいけない、これはゴールではなくスタートであるということ。医学部へ入学したということは、医学や医療に貢献する知識や技術を得る場に入ったということであるが、言い換えるとこれからずっと“人”と相対峙していかなければならないということでもある。そのための力となるヒントをいくつか示し、メッセージとしたい。1) よく遊べ、遊ぶことは社会的行動力を高める。人と遊ぶことで人とのつきあい方を学べる。たくさんの友人を

放射線技術科学専攻 久保 均

作り、色々な経験をして世の中を知ろう。2) よく鍛えよ。臨床の場で自身を守ることができるのは、十分な体力と知力である。学生のうちに十分な体力をつけよう。3) よく勉強せよ。といっても受験勉強のような勉強ではない。これだけ医学が発展した中、ここで直接教えてもらえることはほんの僅かではない。1を聞いて3ぐらいは知れる知力を養おう。

とにかく、ここ徳島の地であらゆることに全力で立ち向かうことを望む。

保健学科から新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ、徳島大学での新しい生活が始まります。これから皆さんは自分の夢を自分のものにするため、本学での4年間あるいは大学院等の教育で幅広い教養と専門知識を身につけることとなります。しかし、大学は高校と違い、個人の主体性の有無が問われます。積極的に大学生活を送って下さい。

さて、現在の医療は高度化、専門化されており、各種の医療従事者が集まったチーム医療が行われています。また、医療の現場における技術革新はめざましく、その領域は、先端技術の

検査技術科学専攻 細井 英司

導入と共に遺伝子工学の分野にまで範囲を広げています。その中で特に、臨床検査は疾患の診断・治療方針の確立・治療効果の判定等に必要不可欠となってきています。そこで、本学の検査技術科学専攻では、「医学・医療に対する関心が高く、豊かな人間性を持ち、コ・メディカルスタッフとしての専門的知識や技術を身につけた臨床検査技師や研究者・教育者の育成」をめざしています。是非、本学で多くの基礎知識と共に先端医療技術を習得し、各分野でのリーダー的存在になれるように頑張ってください。

学生サービス・教員への支援サービスについて

医学部事務部は総務課と学務課で構成されています。

総務課は主に教授会やその他会議に関する事及び情報公開、職員の服務・勤務時間、人事・出張・研修・健康管理、予算の要求・配分・決算に関する事等、教職員の支援を中心に行っています。

学務課は医学科、栄養学科、保健学科の学生さんを支援するための窓口です。学生の入学・休学・退学・転学・復学・卒業・修了に関する事及び教育課程・授業、試験、成績に関する事、学生の課外活動に関する事、学生の健康管理及び生活相談に関する事・学生の就職に関する

医学・歯学・薬学部等事務部長 井上 展啓

こと、学生証及び学生の諸証明に関する事、国家試験に関する事、日本学生支援機構およびその他の奨学金に関する事等を中心に行っています。

新入生の皆さんには授業のことや学生生活のなかで、わからない事がたくさんあると思います。何でも、どんな小さな事でも結構です、どうかお気軽に質問や疑問について、ご相談下さい。親身になってお世話をさせていただきます。皆様と一緒に徳島大学医学部がすばらしい学部になるよう努力したいと思います。

どうぞご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

医学部行事予定

- 4月 6日(水)……………入学式、新入生共通オリエンテーション (13:30～長井記念ホール)
医学部授業開始
- 7日(木)……………学科別新入生オリエンテーション (9:00～)
医学科・栄養学科2年次オリエンテーション (13:30～)
- 8日(金)……………新入生合宿研修 (保健学科：牟岐少年自然の家) 9日まで
- 9日(土)…………… ” (医学科、栄養学科：牟岐少年自然の家) 10日まで
- 13日(水)……………新入生授業開始

教務委員会から

委員長 佐野 壽 昭



平成17年度教務委員会の課題として、非常勤講師・実習経費の削減に伴う問題、全学共通教育と専門教育の連結の円滑化を推進する件、E-learning 本格導入にむけた準備作業、導入後5年目を迎えた医学科カリおよび卒前・卒後臨床実習の見直し、栄養学科教員養成課程の新カリ導入、保健学科と栄養学科との合同授業の開始などがありま

す。また、蔵本キャンパスの全学部教務委員長他と学生代表からなる「教育の質を向上させる」ワーキンググループ活動が成績評価をテーマに継続して行われます。プレハブ講義棟の2棟目が完成する一方、医学部基礎棟・実習棟の改修が6月から始まるため、実習・講義にかなりの支障がでることが予想されています。医学部の教育向上のために学生、教職員皆さんの更なるご協力をお願いします。

学生委員会から

委員長 石村 和 敬



学生委員会は、大学における学生生活が円滑に営まれるように支援するための組織です。学生委員会の所掌事項は、(1) 修学指導、(2) 課外活動、(3) 学生団体の指導監督、(4) 就職活動、(5) 表彰及び懲戒、(6) 奨学金、(7) 身分異動、(8) 運動場、テニスコート等の施設使用、(9) 集会、出版、掲示等、(10) その他学生生活に関すること、

つまりは、正課外のこと全般のよろず相談係です。ちなみに、正課（勉学）についての担当は教務委員会ですが、この二つの委員会は不可分の関係にあり、密に連絡をとりつつ活動しています。昨年末に実施された学生生活実態調査で、医学部の学生は勉学だけでなくサークル活動にも熱心で、全体として健康的な学生生活を送っているという結果が出ました。この1年もそうなるよう、学生諸君を支援していきたいと考えています。

医科学教育部教育・研究委員会から

委員長 佐々木 卓 也



新入生の皆さん、合格おめでとうございます。私どもの委員会は、皆さんがこれから6年間勉強されて、医師国家試験に合格し、その後、医師として研修された後入学する大学院の委員会ですので、まだお呼びじゃないかもしれませんが。ただ、一言言っておきたいのは、皆さんが本医学部に合格された限りは、将来の大学院への進学を目

標にこの6年間を過ごして欲しいということです。新聞等では、良い治療をできる医師の養成と騒がれていますが、それは当たり前のことであって、皆さんには、さらに目標を上を設定して、新たな治療・診断法の開発につながる研究ができるよう、大学院で研究の基礎を身につけて欲しいと思います。委員会では、そういう意欲ある人が入学して、思いきり研究ができるように、カリキュラムを整備することが最近の仕事でした。がんばって。

栄養生命科学教育部教育・研究委員会から

委員長 寺尾 純 二



大学院栄養生命科学教育部が発足して1年が過ぎようとしています。数年は栄養学研究科と重なる組織ですが、大学院共通科目や特別講義などの新しい試みもスタートしました。改修されてまもない栄養学科棟の居室や実験室で大学院生達は懸命に実験

や実習等に励んでいます。今年の3月には栄養学研究科としては最後の博士前期（修士）課程修了生24名を送り出しました。受け入れに関しては、広く全国から栄養学に関心のある人材をもとめて入学試験科目を一新しました（専門に関わる外国語と面接）。また、今後増加が予想される社会人や外国人の入学に対する整備を急いでいるところです。

21世紀COEプログラム

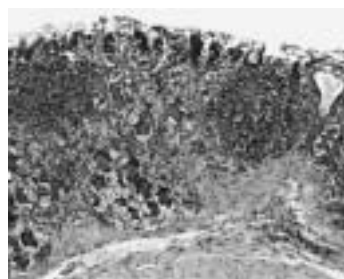
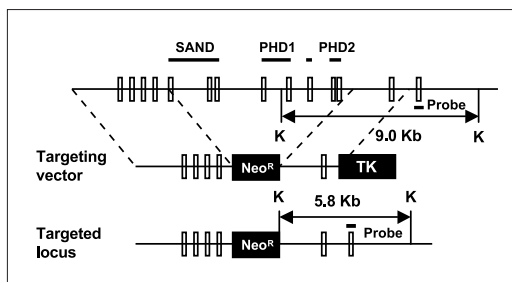
COE 大学院報告

タンパク質の機能解析による自己免疫疾患の病態解明

分子酵素学研究センター・情報細胞学部門 松本 満

自己免疫疾患は、本来、私達の身体を守るために備わっている免疫系が自分自身の身体を攻撃するために起こる病気です。自己免疫疾患は原因不明の難病ですが、私達はAIREという一つのタンパク質の働きを手がかりに、その謎の究明に取り組んでいます。AIREは北欧を中心に多数の家系が存在する遺伝性自己免疫疾患の原因遺伝子です。AIREの機能解明に絞った私達のアプローチは、「多因子疾患克服」を目標に掲げた本COEプログラムの趣旨からは一見、不相応にも思えますが、これまでのところ一つの病原因子すら明確になっていない自己免疫疾患では、AIREタンパク質の研究を通して明らかになるであろう自己免疫病態が、他の多くの自己免疫疾患の理解のための基本原理を

与えてくれるものと期待しています。最近、私達はAIREタンパク質が細胞内の不要物を取り除くユビキチン・プロテアソーム系に関連した機能をもつことを見出しました。すなわち、AIREタンパク質は免疫系の司令塔とも言うべき胸腺の中で、未同定のタンパク質に対してユビキチンを付加する反応を触媒しているようです。ユビキチン・プロテアソーム系と言えば、本学出身の田中啓二先生（都立臨床研）により先駆的な研究が行われていますが、自己免疫疾患の病態にもユビキチン・プロテアソーム系は深く関わっているようです。本COEプログラムへの参加を機に、自己免疫疾患の原因究明に迫りたいと考えています。



遺伝子・ターゲティング (左) により作製した AIRE ノックアウトマウスでは、自己免疫性胃炎の発症を認める (右)。
Kuroda N, et al. J.Immunol.174:1862,2005 より転載。

COE 大学院報告

高運動性モデルラット SPORTS における
海馬ノルエピネフリン動態とストレス耐性

代謝栄養学分野 森島 真幸

我々は、回転カゴ運動特異的に長距離走行をする Wistar 系ラットを選択的に交配し、高運動性モデルラット (Spontaneously running Tokushima-Shikoku; SPORTS) の系を確立した。この SPORTS ラットオスでは市販の同系ラット (コントロール) オスに比べ、回転カゴにおける自発運動で 6-10 倍の走行距離を示す。もともとは運動習慣形成のモデル動物として開発したが、COE 研究のストレスとも非常に関連が強く、個体のストレスに対する抵抗性の研究にも用いることができる。COE の研究では SPORTS ラットの脳内カテコールアミン動態について in vivo マイクロダイアリシス法により検討を行った。SPORTS ラットでは昼夜を通して、海馬組織外ノルエピネフリン

(NE) 量がコントロールラットに比べ有意に上昇し、海馬組織内 NE は有意に減少していた。一般に、脳シナプス間隙の NE の上昇は抗うつに作用することが知られているが、抗うつ判定に用いられる強制水泳実験における SPORTS ラットの無動時間は有意に短く、抗うつ薬を投与した動物と同様の結果が得られた。これらのことから SPORTS ラットは生来的に精神的ストレスに強い可能性が示唆された。運動意欲などの向上が精神ストレスへの耐性を反映するものであるかどうかは不明であり、現在 SPORTS ラットの海馬 NE 動態と高運動性ととともに、抗ストレス作用との関わりについても解析している。

▶ 医学部ニュース

FACULTY OF MEDICINE NEWS

FACULTY OF MEDICINE NEWS

保健学科4年次教育への対応

保健学科教務委員長 川西 千恵美

平成17年度は4年次教育が開始する重要な年度です。学年進行中に国立大学が法人化されたことで人的にも施設面にも大変な逆風を受けていますが、充実した教育が実施できるよう準備を進めています。教務に関する取り組みの一端をご紹介します。

4年次教育に限定すると、卒業研究および国家試験受験のための自学自習環境を整備することは緊急の課題です。プレハブ共通講義棟が建設され、講義室不足の問題が応急措置ながら解消されることになり、結果として既設棟の有効利用が実現可能となりました。また、学生が時間に制約を受けずに研究活動を実施できるよう、保健学科棟に入構管理システムを導入して時間外出入を可能とします。さらに、調査・学習が円滑に進められるよう、保健科学系の蔵書を少しずつですが充

実させています。

一方、国家試験対策については、教員の問題作成による模擬試験や、市販の模擬試験を利用して、学生全員の国家試験合格を目標に学生・教職員が一丸となって対応する計画です。

臨地・臨床実習については放射線技術科学専攻と検査技術科学専攻では本格的に、看護学専攻では短大と異なり保健師の実習が始まります。その準備として地域看護学教員は徳島県下に実習フィールドを求めてお願いし、ご協力いただけることになりました。3専攻とも充実した臨地実習ができるよう、計画を整えています。

学生からの建設的な意見を柔軟に取り入れながら、より良い教育を実施したいと思っています。

FACULTY OF MEDICINE NEWS

「医学部教育施設の充実について」

教育担当医学部長補佐 玉置 俊晃

平成15年度に行われた栄養学科の改修に伴い、栄養学科講義室がなくなるとの異常事態が発生しました。しかしながら、医学部長や栄養学科長の努力が実り、学長裁量経費にて平成16年10月にコンピューターや液晶プロジェクターが装備された医

学部共通講義棟が完成しました。同時期に、医学科基礎講義棟とロッカールームの改修も行いました。より快適な環境で学習できる教育施設の改善に向けて尚一層の努力をいたします。

FACULTY OF MEDICINE NEWS

M6 卒後研修のためのセミナー

卒後臨床研修センター 北川 哲也

医学部長の発案により、今春、徳島大学を卒業し、医師として社会に巣立って行こうとする6年生に対して、研修医時代をいかに有意義に過ごし、後期研修を経て、それぞれ目指す医療人へと育っていくか、先輩として必要なノウハウや知識を伝授する「M6 卒後研修のためのセミナー」を開催しました。医師

国家試験まで1か月もない1月25日の開催でしたが、90数名の学生が参加しました。我々が彼らにしてあげられる最後の会で、先輩達の熱きメッセージを胸に、将来、地域医療で活躍する医師、高度医療を担う専門医、研究者として大きく羽ばたいて欲しいと思います。

FACULTY OF MEDICINE NEWS

統合医療教育開発センターから

統合医療教育開発センター長 玉置 俊晃

徳島大学と姉妹校のテキサス大学ヒューストン校を曾根医学部長と共に平成16年12月に訪問した。医学部と大学院レベルにて、相互に学生と教員の交換事業を計画する目的であった。テキサス大学ヒューストン校は、MD アンダーソン癌センターとベイラー大学医学部とともに広大なテキサスメディカルセンターを形成している、世界でも屈指の医学研究大学である。学生または教員の相互交換事業には幾つかのハードルがあることが明らかになったが、短期間の訪問から始める方向で今後も検討を続ける事になった。近い将来に、徳島大学の学生が自由にテキサス大学で学べるシステムが確立できればと、願っている。

平成16年度から開始した合同講義については、平成17年度

から栄養学科と保健学科の1年生を対象に「人体機能構造学と機能形態論」「臨床医学入門と成人疾病論・高齢者疾病論」を合同講義で行うことが合意された。

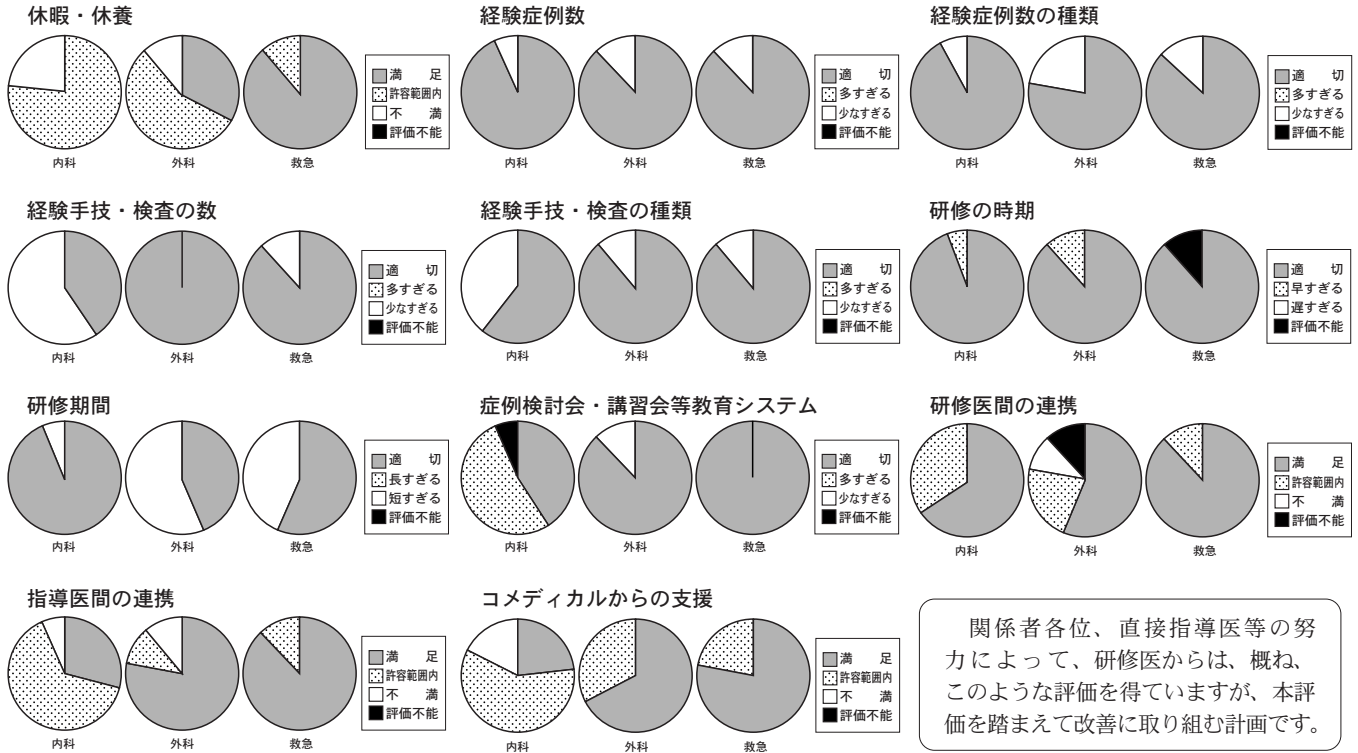


卒後臨床研修必修化について

卒後臨床研修センター 北川 哲也

1) 平成 16 年度徳大病院研修評価

16 年度に徳大病院で行った基本研修（内科、外科、救急）に対する研修医の評価は以下のようです。昨年の 9 月末までに、基本研修を終えた、内科研修医 17 名、外科・救急研修医 9 名が、オンライン臨床研修評価（EPOC）で徳大病院の研修環境を評価した画面から抜粋しました。各項目の円グラフは、左から内科、外科、救急の順になっています。

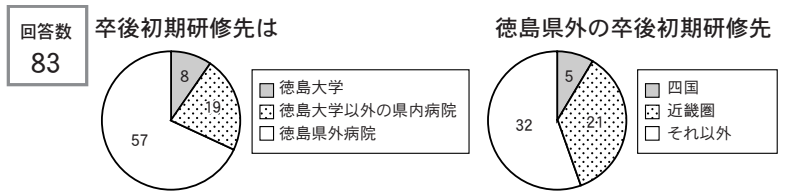


関係者各位、直接指導医等の努力によって、研修医からは、概ね、このような評価を得ていますが、本評価を踏まえて改善に取り組む計画です。

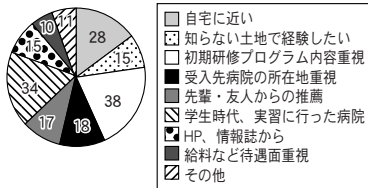
2) 平成 17 年度のマッチング結果から

H17 年度の予定研修医数は 25 名と半減し、うち、徳大卒業予定者等は 16 名です。卒業予定の 100 名のうち、多くは兵庫、大阪、京都といった大都市で研修予定であり、その 6 割は U ターン組です。徳島県に 26 名残りますが、徳大病院では県外出身者が、外病院では県内出身者が多い図式となっています。

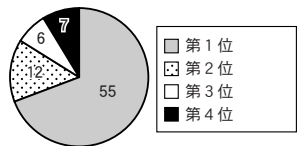
彼らが、初期研修、後期研修をどのように考えてマッチングに臨んだか、「M6 卒後研修のためのセミナー」に参加した学生を対象に、アンケートをとりました。（右グラフ）



研修先を決めた動機



決定した研修先病院について希望した順位

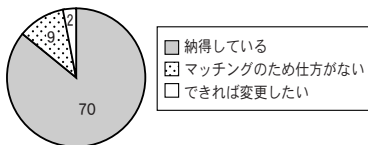


3) 今後の対策

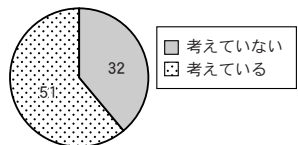
彼らは、医学部 6 年+初期研修 2 年の 8 年を duty として受け入れ、自らの希望先で初期研修を受けようとしていますが、卒後 3 年目からの後期研修に対する不安は強いようです。

今後の対策として、まず、地域中核病院の定員枠の増大を図り、徳大病院単独プログラムを新設する等の初期研修プログラムの再編を考えています。また、各分野と診療科では、基幹学会の専門医、subspeciality 専門医、大学院コース等の後期研修を充実させ、卒前～卒後に彼らに継続的に情報提供し、メッセージを送ろうと計画しています。

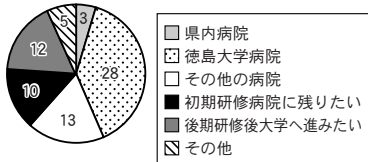
研修先病院の決定について



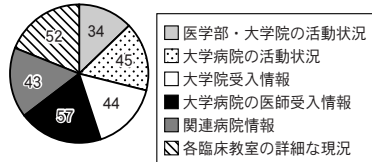
初期研修後の進路について



初期研修後の進路 (考えている 51 名の回答、複数回答可)



徳島大学より提供して欲しい情報



M.D. - Ph.D. コース進学にあたり

大学院医科学教育部博士課程1年 荻野 広和



この春より M.D. - Ph.D. コースに進学し、分子制御内科学(曾根三郎教授)にてお世話になることになりました荻野です。よろしくお願ひいたします。M.D. - Ph.D. コース自体については諸先輩方がすでにこのコーナーにて紹介されておられますので、今回は私のように臨床教室で研究活動を行うという事について述べさせていただきますと思います。私が今の教室に関わりを持ったのは4年生での研究室配属の時でした。臨床の仕事をごなしなが

ら、研究にも精を出されている先生方を目の当たりにし、非常に刺激を受けたのをよく覚えています。と同時に「基礎と臨床の橋渡し研究」というものの重要性、また臨床教室がそれに果たす役割の大きさを実感した事もあり進学を決意しました。今後はこの初心を忘れる事無く、臨床教室で研究を行う事のメリットを十分に活かし、少しでも臨床に役立つような研究が出来るよう、努力して行きたいと考えております。最後になりましたが、進学にあたりお世話になりました曾根教授ならびに諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成16年度西日本医科学学生総合体育大会体優勝

昨年8月に開催された西医体の男子団体戦において優勝することができました。それまで三年連続で準優勝だったので、優勝は部の悲願でした。次は連覇にむけて練習に励んでいます。バドミントンと言うと誰でも一度はしたことがあると思いますが、スポーツとしてのバドミントンはネットを挟んでシャトルが高速で飛び交うスピード感あふれる競技です。初心者でもとつきやすいですが、はまると奥が深いですよ。蔵本バドミントン部には初心者から上級者まで所属しており、皆が自由な感じで練習します。興味があるかたは蔵本体育館まで。

(バドミントン部 主将 高橋 芳徳)

平成16年8月3日(火)～8月6日(金)に香川県の高松市総合体育館に於いて開かれた西医体で僕達男子団体は2連覇することができました。

昨年優勝というプレッシャーの中で緊張しましたが、一立目がおわり緊張もほぐれると本来の実力が出せ始めました。二日にわたる団体戦でしたが終わってみれば僅差で優勝することができました。連覇ということで喜びも一入でした。

今は部員一同練習に励み男子3連覇と女子優勝に向かって動かだしています。

(弓道部 主将 乾 稚宏)

平成17年3月卒業者の進路状況

医 学 科		栄 養 学 科	
進 路 先	(人)	進 路 先	(人)
徳島大学医学部・歯学部附属病院	7	愛媛県	2
大阪大学医学部附属病院	1	兵庫県	1
京都大学医学部附属病院	2	札幌市	1
京都府立医科大学附属病院	1	徳島市	2
山口大学医学部附属病院	1	日清医療食品株式会社(東京都・高知県)	3
東京医科歯科大学医学部附属病院	1	キューピー株式会社(香川県)	1
千葉大学医学部附属病院	2	J A 秋田厚生連(秋田県)	1
自治医科大学附属病院	1	愛知県厚生連(愛知県)	1
北海道大学病院	1	社会福祉法人日南福祉会(鳥取県)	1
国立国際医療センター	2	田原病院(大阪府)	1
国立病院機構呉医療センター	1	東佐野病院(大阪府)	1
国立病院機構香川小児病院	1	平成医療福祉グループ	1
国立病院機構大阪医療センター	1	株式会社 N T T ドコモ四国(徳島県)	1
国立病院機構姫路医療センター	1	百十四銀行(香川県)	1
国立病院機構長崎医療センター	1	小 計	18
徳島県立中央病院(徳島県)	5	大 学 院 進 学	(人)
高知医療センター(高知県)	1	徳島大学大学院栄養生命科学教育部(博士前期)	21
兵庫県立尼崎病院(兵庫県)	2	徳島大学大学院医科学教育部(修士課程)	1
兵庫県立淡路病院(兵庫県)	1	京都府立大学大学院人間環境科学研究科(博士前期)	1
静岡県立総合病院(静岡県)	2	小 計	23
東京都立荏原病院(東京都)	1	そ の 他	(人)
徳島市民病院(徳島県)	1	未定	8
市立川西病院(兵庫県)	1	小 計	8
小野市民病院(兵庫県)	1	合 計	49
神戸市立西市民病院(兵庫県)	1		
尾道市立市民病院(広島県)	1		
市立三次中央病院(広島県)	1		
一宮市民病院(愛知県)	1		
碧南市民病院(愛知県)	2		
国家公務員共済連合会大手前病院(大阪府)	1		
徳島赤十字病院(徳島県)	9		
健康保険鳴門病院(徳島県)	3		
徳島健生病院(徳島県)	1		
高松赤十字病院(香川県)	2		
回生病院(香川県)	1		
小 計	62		
大 学 院 進 学	(人)		
—	—		
小 計	0		
松山赤十字病院(愛媛県)	1		
高槻病院(大阪府)	1		
大阪府済生会中津病院(大阪府)	1		
八尾徳洲会総合病院(大阪府)	1		
淀川キリスト教病院(大阪府)	1		
神戸赤十字病院(兵庫県)	1		
姫路聖マリア病院(兵庫県)	1		
日本赤十字社和歌山医療センター(和歌山県)	2		
社会保険紀南総合病院(和歌山県)	1		
国保橋本市民病院(和歌山県)	1		
岡山済生会総合病院(岡山県)	1		
水島協同病院(岡山県)	1		
中国労災病院(広島県)	1		
京都第二赤十字病院(京都府)	1		
武田総合病院(京都府)	1		
武田病院(京都府)	1		
小文字病院(福岡県)	3		
聖マリア病院(福岡県)	1		
千鳥橋病院(福岡県)	1		
名古屋第一赤十字病院(愛知県)	1		
知多厚生病院(愛知県)	1		
安城更正病院(愛知県)	1		
聖隷浜松病院(静岡県)	1		
静岡赤十字病院(静岡県)	1		
横浜南共済病院(神奈川県)	1		
湘南鎌倉総合病院(神奈川県)	1		
東京都済生会中央病院(東京都)	1		
江東病院(東京都)	1		
亀田総合病院(千葉県)	1		
竹田総合病院(福島県)	1		
旭川赤十字病院(北海道)	1		
帯広第一病院(北海道)	1		
小 計	35		
そ の 他	(人)		
特になし(1年間自由に過ごす)	1		
国家試験を受験しない	1		
小 計	2		
合 計	99		

退任のご挨拶

分子細菌学分野 教授 大西 克成



昭和51年4月1日から平成17年3月31日まで29年間徳島大学にお世話になり、定年で退任することになりました。医学部長のときはもちろん、多くの教職員の方々に御協力いただきました。また、多数の方々と一緒に研

究をし、教育に携わって来ました。研究を推進するために、全国の大学や研究所の方々、先輩、友人、知人、また、米国やタイなどの外国の研究者、さらに民間の会社の方々と共同研究をさせていただきました。御協力いただいた方々に心から感謝申し上げますと共に、皆様のますますの御発展、御健勝を祈念申し上げます。

赴任のご挨拶

奈良県立医科大学 薬理学講座 教授 吉 栖 正 典



平成17年2月1日付けで、奈良県立医科大学薬理学講座担当を拝命いたしました。徳島大学在職中にお世話になった多くの方々にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。私は昭和62年に本学医学部医学科を卒業し、心臓血管外科と薬理学講座で勉強させて

頂きました。今つくづく徳島大学で学び、研鑽できたことに感謝するとともに誇りに思っております。奈良の地でも、私が教えられ育てられてきたように後進の指導に全力を尽くす所存です。これからも機会ありましたら、皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

▶ 徳島医学会学術集会報告

第230回徳島医学会学術集会（平成16年度冬期）が、平成17年2月6日に長井記念ホールを会場として開催されました。この学術集会は毎年夏と冬に医学部と徳島県医師会の主催のもとに開かれるものです。今回、医学部からは形態情報医学分野と侵襲病態制御医学分野が担当しました。

午前中はシンポジウム「神経研究の最近の知見-基礎と臨床から」の総合題目のもと、「睡眠と生体リズム研究の最近の知見」（統合生理学：勢井宏義）、「うつ病の脳科学」（精神医学：上野修一）、「脳卒中診断の最前線」（脳神経外科学：宇野昌明）、「脊髄小脳変性症の遺伝子異常」（神経情報医学：和泉唯信）、「脊髄におけるプロスタグランジン」（形態情報医学：山本登志子）など、徳島大学における最新の研究内容が紹介されました。次いで、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部予防医学分野有澤孝吉教授の「環境要因の健康リスク評価と疾病予防への貢献」と題する教授就任講演がありました。午前の最後はポスターセッションで、2会場に分かれて21演題の発表が行われ、活発な討論が交わされました。

午後は第13回徳島医学会賞授与式に引き続いて佐藤陽一、梨木邦剛、西内健の3氏による受賞記念講演が行われた後、シンポジウム「徳島の緩和ケア」に移りました。これは徳島県の緩和ケアの実状について語り合うことを目的としたもので、行政の立場から坂東氏（徳島県医療政策課）、大学から黒葛原氏（緩和ケア室）

第230回担当 石村 和 敬・大下 修 造

と生島氏（放射線部）、緩和ケア病棟を開設している民間病院から荒瀬医師、在宅医療の立場から河野医師、患者家族の立場から上平氏と、多彩なメンバーによるお話と活発な討論がありました。このシンポジウムは徳島医学会としては初めて一般の方々にも公開され、会員とともに200人を越える市民が熱心に聞き入りました。



（教授就任講演 有澤孝吉教授）



写真で見る医学部

医学部 基礎研究棟 A 棟西側 —建設の経緯と歴史—

統合生理学分野 森田雄介

元医学部長黒田嘉一郎著「蔵本雑記」の5頁に、次のような記載がある。

「…昭和23年2月10日徳島医科大学は中田篤郎先生を学長として発足したのである。これより先、中田先生は占領軍に交渉し、昭和22年10月歩兵第3連隊の兵舎の跡に校舎並びに附属病院を移した。これが今日の徳島大学医学部にまで発展した…(中略)…研究室、病室等、大学の総ての建物は、旧兵舎をそのまま使っていた。(以下、略)」とある。「兵舎」から「医学の殿堂」へと生まれ変わった経緯がよく分かる。

木造の旧兵舎は逐次建て替えられ、鉄筋コンクリートの近代建築に装いを変えた。その第1号が図書館(蔵本分館)であり、第2号が「基礎A棟西側」の建物である(昭40.3竣工)。当初、綜研、生化、薬理、酵素研が入居していた。その後、建物の大幅改装(昭43、44)、酵素研の独立・移転(昭62.5)等により

内部の再編を経て現在に至っている。

この間、大学紛争による建物の占拠・封鎖など幾多の風雪にもよく堪えてきた。6月より平成の耐震化改修工事が始まる。厳しい予算のため、薄化粧に終わるようである。それにしても、中身は濃い「医学の殿堂」でありたい。



栄養学科 —建設の経緯と歴史—

生体栄養学分野 岸 恭一

旧栄養学科棟は昭和41年5月に竣工したが、その当時周囲の研究棟は平屋の陸軍兵舎を改造したもので、鉄筋コンクリート5階建ての潇洒な?栄養学科棟は周りを睥睨?していた。屋上から北を望めば吉野川の川面の照り返しを、また南は遮るものもなく眉山を一望できた。春には西部公園の桜を愛で、秋には紅葉を最初に目にし、季節の移り変わりを楽しめた。3階からは、東西に各講座が入り、中央には実習室が設けられていた。内装は緑とピンクを基調に、明るい色彩で統一され、食と健康について教育・研究を行う栄養学科にふさわしい配色となっていた。エレベータは患者様のストレッチャーが入る十分な広さで、大型の機器の搬入にも重宝した。今回の大改修で、

内装も外観も、昔の面影を止めないまでに一新された。



保健学科 —建設の経緯と歴史—

看護学専攻 竹内美恵子

保健学科棟は、昭和24年、開設された看護学校(看護学専攻)の徳島県連帯兵舎を使用した校舎が源である。昭和35年、診療エックス線技師学校(現放射線技術科学専攻)、次いで、昭和38年、衛生検査技師学校(現検査技術科学専攻)も同兵舎で開校した(写真1)。昭和42年、医学部付属病院外来棟正

面の3階に移動し、独立した校舎が現在地に建設されたのは昭和47年である。昭和63年、医療技術短期大学部の開設に併せ、校舎北側に5階建てを増設した。平成3年、看護学科30人が増員となり、西側5階建てが増設されたのは平成5年である(写真2)。同校舎は、平成13年10月保健学科開学を記念する碑と紅梅を正面玄関に掲げ、保健学科教育研究棟として使用するに至った(写真3)。



写真1:旧看護学校、診療エックス線技師学校、衛生検査技師学校の木造2階建(旧幹部兵舎) 建築年1906年



写真2 医療技術短期大学部校舎 鉄筋5階建てを南、北、西側に増設 建築年昭和63年



写真3 保健学科教育研究棟正面

TOPICS 最新トピックス

●平成17年度から駐車料改定!

職員は24,000円に学生は12,000円に改定されます。年間料金、年度途中での登録・解除については月割りにて対応します。登録申請手続きは、厚仁会駐車整理部(第2売店2階)へ。

●医学部長補佐(国際関係)を採用!

海外への広報に関する企画、国際学術交流にかかる事項を担当します。

●医学部リーフレットを作成しました!

医学部の小冊子です。ご入り用の方は総務課までご連絡ください。

088-633-9118まで



学遊村 「食の流れに身をまかせ」

分子栄養学分野 宮本賢一



私の学生時代は、遊びを本業としていた。遊びとはいいながら、趣味と実益を兼ねたバイトに明け暮れる毎日であった。とくに、栄養学を専攻していたので、食べ物に関するバイトに精を出した。しかし、この頃の「遊び心」が、栄養学科の教員となった今、非常に役に立っているため紹介する。

両親が共稼ぎをしていたおかげで、小学校の頃より自分で食事を作る習慣が身に付いた。小学3年生になると、近所のお好み焼き屋に食材をもって通っていた。注文するのは、いつも「普通焼き」で、持参した食材で「いか肉玉モダン焼き」に変身させて満足していた。あまりにも美味しいので、店のおばさんに、いつも2人前作らされた。それが自信となり、大学を選ぶ際には、調理実習のある本学栄養学科を希望した。栄養学科の授業は、食事の作り方よりも、生理学や生化学が中心で、私には講義の内容が全く理解できなかった。2年生には進級できたものの、講義には興味を失い遊び

暮らす毎日だった。遊びは、レストランやスナックの厨房でバイトしながら、調理師の先輩方から、いろいろな人生勉強をさせていただいた。いったん社会に出ると、とくに食に関わる現場では、栄養学は全く意味のない学問のように感じていた。食事や食品への科学的な理解は皆無で、味とカロリーのみが重視されていた。今、流行の機能性食品などは、注目されることもなかった。当時は、美味しければそれでよしの時代だったのだ。日本の経済が豊かで、だんだん夜の仕事が増えた。スナックでのバイトは、「お酒を飲んだ後なげラーメンの注文が増えるか」を考えさせられた。日本酒が「するめ」の味をひきたてる理由。「レーズンバター」がウイスキーに合う理由。体に悪いと言われる食材ほど美味しく感じられる理由。学生の頃に厨房で学んだ「夜の栄養学」が、自分の研究テーマになり、今となっては大きな財産になっている。いろいろ考えているような気がする。なんの因果か、教育研究で身を立てる立場になったが、研究の方は、そう簡単に「いか肉玉モダン焼き」に変身させられそうにない。

*** 受賞者紹介 ***

中田賞受賞

第51回医学科卒業生(平成17年3月卒業) 桑山泰治



この度、中田賞という名誉ある賞を頂きまして、過分の御評価に感謝申し上げます。医学部だよりが発行される頃には、私は徳島赤十字病院において研修医として働いています。日々努力し早く一人前となり徳島の医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

児玉賞受賞

第38回栄養学科卒業生(平成17年3月卒業) 古本真理



この度は、児玉賞という名誉ある賞を頂くことができ、4年間御指導下さいました素晴らしい先生方に大変感謝しております。今後、どのような道に進むことになっても、この受賞を励みとし、努力していきたいと思っております。



(各賞受賞者) 前列左から：西角彰良、森一博、谷憲治、久保均、桑原知巳(敬称略)

Best Teacher of the Year 2004 賞

医学科：桑原知巳(分子細菌学分野)
谷憲治(分子制御内科学分野)
森一博(小児医学分野)
栄養学科：二川健(生体栄養学分野)
保健学科：_____

* Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞：西角彰良(附属病院循環器内科)
栄養学優秀教育賞：竹谷豊(臨床栄養学分野)
保健学優秀教育賞：久保均(診療放射線技術科学講座)

* 医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

医学部優秀学生賞

医学科・6年：桑山泰治 栄養生命科学教育部博士後期1年：林佩瑩
5年：酒井和香 外国語研究会(代表医学科・4年)：小林彩華
4年：荻野広和
4年：門田真紀 (学年は平成17年3月時点)

* 各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。



前列左から：酒井和香、廣瀬政雄医学部後援会長、荻野広和
後列左から：岸選考委員、林佩瑩、外国語研究会の皆さん
後列右から：石村選考委員 5人め：門田真紀 (敬称略)

編集後記

7号発行の時点(昨年末)で未定だった医学科実習研究棟の改築が平成16年度の補正予算で認められ、近々着工されます。徳島大病院の増築計画も進行中です。プレハブ講義棟の増築も決定し、学生ロッカールームの補修等も終了しました。また、平成17年度は学部、学科を越えた統合講義も進展しそうです。大学院ヘルスパイオサイエンス研究部(教員組織)としての研究活動の活性化とともに、医学部教育の充実(教務、福利厚生、施設)が今後の課題です。(福井義浩)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 福井義浩(委員長)、足立昭夫、武田憲昭、大下修造、太田房雄、吉永哲哉、森口博基、井上展啓

医学部だよりへのご意見・ご要望は、(第1総務係:木村) isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp までお願いします。
Tel: 088-633-9118 Fax: 088-633-9431
URL <http://www.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/university/servlet/index>